

## つくばね vol.26no.3

## ● 目次

- 1 教育の情報化と情報リテラシー
- 4 図書館情報大学実習生 実習体験記
- 6 印記からわかる本の持ち主
- 8 本学教官寄贈著書紹介
- 8 私の一冊
- 10 Ask Us としょかんミニガイド
- 11 とびっくす
- 12 掲示板

## 教育の情報化と情報リテラシー

井田 哲雄

Information Technology (情報技術), 略してIT, が非常に注目されています。ITという言葉が聞かずに一日を過ごすことがないというくらいです。IT革命という言葉さえ使われます。後世の人々がこの社会の変動を革命と呼ぶのか, 定かではありませんが, 私にはこれはIT革命というのにふさわしいように思われます。今, 私達は, ITフィーバーの真っ只中にいます。このIT革命に取り残されてはいけないと人々は思っています。

しかし, 冷静になって, 物事を少し整理して見る必要もあると思います。

「教育の情報化」あるいは「情報リテラシー」というとき, 情報技術を身につけるのか, 情報技術を利用して何かをよりよく, 効率的に学ぼうとするのかを区別する必要があります。前者は情報リテラシーに関するものです。後者が教育の情報化の問題です。情報技術を活用したすばらしい教育のシステムがあっても, その情報技術がある程

## 仮想教室システム



## 学習履歴情報の可視化



- ◆ 学習者の学習履歴を構造を伴って表示
- ◆ 関連分野と併せた構造による学習履歴
- ◆ 前提知識の推定とそれによる教授方針

度身につけていないとシステムが活用できませんので、情報リテラシーも重要になります。しかし、両者は本来別々です。ここでは、ITを活用して、教育改革を目指したいという視点で考えていきたいと思います。

まず、教育になぜITが必要かを考えたいと思います。永い時間を経て作られてきた大学のような高等教育の場になぜITを持ち込まねばならないかについてです。コンピュータのような人間性に欠けたものをもって、どうして、崇高な全人教育を置き換えることができようかという素朴な（しかし重要な）疑問があります。この間に答えるには、教育の方法論だけを取り出して議論することは適当でないと考えます。ITの必要性は、教育と社会との関連で、考えていかねばならないのです。

カリフォルニア大学のトロウ教授によれば、高等教育はエリート教育、大衆教育の段階を経て、ユニバーサル教育の段階に、先進国では移行しつつあるとのことです。ユニバーサルというところがわかりにくいですが、ここでは「誰でも」ということです。「誰でも」ということは、多様なということ、ここでは、意味します。この多様というのが、重要なことです。高等教育の多様化というのは、能力も、動機も、年代も、受けてきた教育も異なった人が高等教育の場に入ってくるということです。

このような人々に同じ教育を施すことができるでしょうか？できないのは明らかです。多様化した学生には多様な教育法で対応しなくてはならないのです。多様化した学生に、多様に対応しようとすれば、多くの教員を必要とします。今の教育方法の延長線上で多様化した教育を考えるならば、遅かれ早かれ、経済的に破綻してしまうと私は思います。どんな先進国も、かつてのエリート教育のときのように、ふんだんに人的資源を用いる教育を、多様化した学生に施す経済的余裕がなくなっているのです。多様化した学生に対して、

多様に対処する有力な方法のひとつがITの活用だと思えます。

ユニバーサル化に対応するために、生涯教育、遠隔教育、能力別、動機別教育のシステムなどが考えられてきました。これらの教育システムのいずれをとっても、ITはとても有効なのです。生涯教育を例にとってみましょう。生涯教育は、実は生涯学習です。一生勉強をしたいということです。年輩者の多くは、自分は学びたいのであって、教えられたくないと思います。若い学生でしたら、わかっていることを、くどくどと講義されるのはごめんだと思うかもしれません。彼らは一日のほんの少しの時間でも、空いた自由時間に勉強をしたいと思うのです。そんなときに、身近にあるコンピュータからインターネット経由で大学にアクセスし、自習教材を勉強することができたらよいと思うのです。ここでは、非人間的であると非難されるコンピュータはむしろ好ましい存在になるのです。コンピュータが発する質問に対して、いくら間違えても、コンピュータは感情的になって怒ることがなく、コンピュータに笑われて恥をかくこともないのです。

遠隔教育でもコンピュータはその能力を遺憾なく発揮します。ここでは、一つ一つのコンピュータがインターネットでつながれた世界を想定します。近い将来、多くの家庭で使えるようになるであろう毎秒数百キロビットの通信線で、かなり快適にインターネット経由で勉強できます。インターネットでいろいろなホームページにアクセスするように、遠隔地から大学の図書館や研究室のホームページにアクセスして、学習することができます。従来の放送技術を用いた遠隔教育にくらべると、時間に制約されず、しかも対話的に学習ができる点で、ITを用いた教育は、これまでにない優れた性質を持ちます。

しかし、ITを用いた教育の可能性はまだ十分に探られておらず、これからの研究開発でもっともっとすばらしいものになっていくと思います。

今インターネットを用いたショッピングが盛んになりつつありますが、学習には、仮想ショッピングモールなどと比べると、遙かに高度なソフトウェアが必要です。仮想モールのページのような簡単なものでは、学習者はとても満足できないと思います。教材は、今は、OHPのスライドをそのままホームページにした電子（紙）芝居のようなものが多いですが、遠隔教育に本格的に用いることになると、もっと優れたマルチメディア教材が必要になってきます。また、そのようなマルチメディア教材を作るためのソフトウェアも開発していく必要があります。

遠隔地でなくても、コンピュータネットワークを用いた学習の可能性は広がります。そのようなものの一つとして仮想教室というものがあります。普通、学生は一つの科目を受講すると、みな同じ場所に集まって講義を聞かなければなりません。しかし、仮想教室では、仮に同じ時間帯に勉強する場合でも、一同に会する必要はありません。学生は自分のコンピュータから、インターネットの仮想教室のページにアクセスします。仮想教室には仮想黒板や教材が置かれていて、学習者は教材を見ながら学習できます。教授者も仮想教室に接続し、学習者の学習を支援できます。教材は、本のように、順を追って一次的に並んでいるのではなく、相互に関係する節が、リンクするような構造になっています。学習者は自分の理解度や興味に応じて、これをたどりながら勉強します。そして、友達がどの節を学んでいるのかや、自分がどのような順序で教材を勉強し、各ページの理解にどれだけ時間が費やされたかを見ることができるようになっています。このような機能をもつシステムは世界中のいろいろなところで研究・開発されていて、商用化されたシステムも次々に市場に出てきています。

本稿の最初のページで示した二つの図はそのような仮想教室の一つのイメージです。これらは、私の研究室で、理工学研究科の大学院生であった

新井幹也君が作成した仮想教室システムのプロトタイプの一部です。最初の図が仮想教室のホームページ、二番目がそこで使う教材を図示したものです。教材のページがグラフ構造になっていて、何人が各ページにアクセスしているかが見えるようになっていることに注目してください。このようなシステムを用いれば、学習者は自分の理解度に応じて、教材を勉強することができるようになります。

最後に図書館とこのような情報化する教育との関係について、私が期待していることを書きます。これまで、図書館は知の倉庫でしたし、これからもそうであり続けると思います。しかし、知の形態が大きく変わりつつあります。知は図書の形以外でも存在することが多くなります。すでに、多量の知が図書館の外に、インターネットにつながれて存在します。例えば、仮想教室で使われる教材も知の一つの形態です。今は、大学で蓄えられる研究のデータも教材もホームページも、個々の研究者のサーバーで管理しています。将来は大学の図書館が、大学が創生する知を蓄え、外に発信するサーバーでもあって欲しいと思います。

(いだ・てつお 電子・情報工学系教授)



## 図書館情報大学実習生 実習体験記

今年は9月11日(月)~29日(金)の3週間、図書館情報大学実習生12名が実習をしました。



実習生の受講及び実習風景

### 粕川 昌子

情報が氾濫している今、それらを収集し管理していくことは思った以上に大変で、大切であると感じた。筑波大学の様に広く所蔵量の多い図書館では、まぎれこんだ資料は簡単に探し出せない。

図書館の資料は共通の情報資源である。本を決まった場所に返すという最低限のマナーを守ってこそ図書館の意義が見出されるものだと思う。実習の多くを費やしたシェルフリーディングの大切さを学ぶと共に、利用者の小さな心懸けが互いの使いやすい環境をつくり出すものだと知った。

(かすかわ・まさこ 図書館情報学科3年)

### 松浦 蔵人

図書館の実際の仕事を体験してみて思ったことは、図書館の仕事というのは肉体労働だということだった。実際に体験する前からある程度予想はしていたが、実際はそれ以上だった。主に雑誌サービス係で実習させてもらったが、立ち仕事が多く、裏舞台の仕事をした。もちろん、そういった仕事ばかりでなく、頭脳労働もあったが肉体労働の印象は、とても強く残った。しかし、そういった仕事の実際を知ることができたのは、とても有意義で、必要なことだと思った。

(まつうら・くらんど 図書館情報学科3年)

### 梅沢 聡子

雑誌係で実習をさせていただきました。雑誌は書誌事項が継続し変化するので管理が大変です。

データの入力にせよ、配架の整備にせよ、利用者がほしい情報を確実に手に入れるために大切なことばかりでした。また、シェルフリーディングではあるべきところにあるべき本を置くことは図書館の信用に関わることでありますから、面倒くさがるわけにはいかないことを実感しました。

そして、職員の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

(うめざわ・さとこ 図書館情報学科3年)

### 佐藤 由紀江

今まで大学で学んできた図書館業務の実際を知ることができた。筑波大学附属図書館では、講義での知識を余す所無く引き出してくれた。大規模な大学図書館だからこそできる、他では実現し得ないような組織化された業務や、受け継がれてきた歴史としての資料、貴重な古典資料、そして最新の技術・サービスをもって利用者のニーズに対応していること。その資料の集中化と全面開架を支えるために、多大な労力を費やしていること、図書館の保存と利用という矛盾する宿命を身をもって実感した。

(さとう・ゆきえ 図書館情報学科3年)

### 斉藤 亜希子

今回の実習では、運用コースということでメインカウンターやレファレンスカウンターでの業務や、相互貸借、蔵書の管理作業などを中心に学ばせていただきました。中央図書館は、学内だけでなく学外からも多くの利用者が来館する大規模な図書館なので仕事は大変でしたが、利用者の立場では気付かなかった発見がありました。職員の皆さんの指導のおかげで色々な業務を体験し、図書館の仕事の実際を知ることができました。今回の実習で学んだことを今後役に立てて行きたいと思っています。

(さいとう・あきこ 図書館情報学科3年)

### 石井 梨奈

大学で図書館の勉強をしているので、図書館員の立場から図書館について理解していると自分で

は思っていました。しかし、実際の業務を体験してみなければ分からないことがたくさんあると感じました。図書館というのは常に利用者のことを考えています。利用者の要望になんとか応えて差し上げたいと努力しています。図書館は「本が置いてある場所」というだけのものではなく、情報と情報を探している人を結ぶための手助けをしてくれる場所であると実感しました。

(いしい・りな 図書館情報学科3年)

### 清水 めぐみ

今回の図書館実習で、これまでに授業で学んできたことが、現場の業務の中に実際どう組み込まれているのかということを知ることができた。「図書館の仕事は体力勝負」だと何度か聞いてきた言葉の意味を、この3週間でじっくり実感した。現場に来てみて初めて分かる細かい事情や、今まで利用者側の視点から見ていたことを図書館員側から見てみることで、数々の貴重な体験をすることができ、充実した日々を過ごした。実習で学んだことを将来に生かして行きたいと思う。

(しみず・めぐみ 図書館情報学科3年)

### 大河 友佳

今回の実習では、図書館の表舞台であるカウンター業務に参加するとともに、シェルフリーディング等の裏方の業務も体験することができ、図書館業務の全体像を知ることができました。カウンター業務は貸出と返却の場と思っていましたが、実際に立ってみると関連する仕事がいくつもありません。また、レファレンスで受けるような質問を受けることもあり、業務の多様さに驚きました。

今回の体験で今まで学んできた理論を実感したり、違いを発見し、大きな財産になりました。

(おおかわ・ゆか 図書館情報学科3年)

### 工藤 めぐみ

この実習では、主に目録に関する業務を体験した。これは利用者とは直接関わることはないが、図書館にとって大切な業務の一つである。実際に携わってみて、大学で得た知識が役に立ったこともあった。逆に、体験してみて気が付いたこともたくさんあった。例えば、質の高いデータにする為に、いかに注意を払わねばならないかということや、洋書を扱う場合は言語だけでなく、各国の出

版事情などの知識があると便利だということだ。

実習期間中、職員の方には熱心に指導していただき、ありがとうございました。

(くどう・めぐみ 図書館情報学科3年)

### 石田 枝里香

この実習を終えて感じたのは、図書館は職員の技術一つ一つが集結したものであるということだ。利用者からは見えないところで、沢山の技術者がその専門の技術をもって図書館を形成している。それを理屈では判っていたが、実際目にして、専門ごとの分担が緻密になされていることに驚いた。目録は精確さを求められる作業だったが、職員の方々のお力添えによりスムーズに行うことができたと思う。辛いことや大変なこともあったが、この実習をこれからの糧とし、頑張っていきたい。

(いしだ・えりか 図書館情報学科3年)

### 竹村 寛子

この実習では、扱う資料の種類が多さに改めて大変さを感じました。古典資料のような歴史的価値のあるものや、電子ジャーナルのような新しい形態の資料まで、各々対応の仕方が異なりますし、利用者への提供の仕方も異なります。職員の方々がそれぞれ苦心しながら、図書館をつくられている様子を知る事ができました。今回は主に和図書の目録作成を学びましたが、古典資料での糸綴じの体験というユニークで楽しい体験もできました。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(たけむら・ひろこ 図書館情報学科4年)

### 高田 裕文

私にとって実習に行くことは、初めて図書館の実際の現場に行くことでした。それだけに、頭の中の図書館と、実際の図書館との差が感じられました。図書移動の重さや辛さが授業でわかるわけがなく、一方で、自分の作成した目録が次の日には利用に供される、という充実感もまた教科書には載っていません。また、図書館の方々の親切で忍耐強い指導は、現場に即した重みがありました。今回の実習は、想像していた図書館と実際の図書館とを摺り合わせる貴重な時間だったと思います。

(たかた・ひろふみ 図書館情報学科4年)



## 印記からわかる本の持ち主

本を手に入れた人が自分の所有物であることを宣言するために捺したハンコが「蔵書印」です。言い方を変えれば、蔵書印によって、その本のかつての持ち主がわかるわけです。今回は、和装古書を整理している中で見つけることのできた蔵書印をいくつかご紹介します。

### 「勝安芳」勝海舟 文政6 - 明治32 (1823-1899)



いわずと知れた明治維新の幕府側の立役者。「安芳」は別名で、官職だった「安房守」を、維新後変えたものです。海舟の蔵書は、第二次世界大戦で分散し、現在でも古書店に現れることがあるそうです。

ル120-240『はちかづき』

寸法：3.0×2.0cm

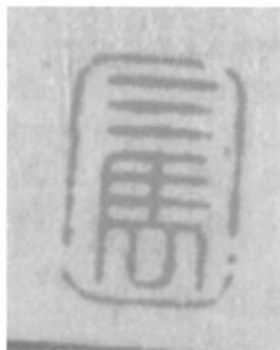
### 「式亭」「三馬」式亭三馬 江戸後期の戯作者 安永5 - 文政5 (1776-1822)



ル156-4 黄表紙

『鸚鵡返文武二道』

寸法：1.4×1.4cm



ル151-21 浮世草子

『新板繪入契情於国歌舞伎』

寸法：1.6×1.2cm

生涯で百数十点の合巻、洒落本、滑稽本等を著しました。代表作に江戸町人の様子を描いた『浮世風呂』『浮世床』等があります。当代一の文壇通であり、侠客肌でした。

### 「此ぬし浮世本かき種彦」柳亭種彦

#### 江戸後期の戯作者 天明3 - 天保13 (1783-1842)



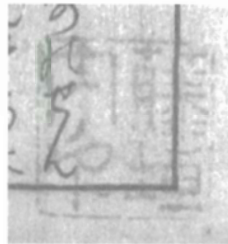
合巻『偽紫田舎源氏』が代表作です。天保13年、天保の改革で戯作活動を咎められ、その渦中で亡くなりました。元禄期小説、戯曲、古俳書を多く収集し、それを元に随筆等を著しています。

ル219-3『茶場百首歌』

寸法：3.7×1.3cm

### 「藤垣内印」本居大平 (おおひら)

#### 本居宣長の養子 宝暦6 - 天保4 (1756-1833)



ル205-33

『和歌手習』

寸法：3.0cm 四方

13歳の時に宣長に入門、宣長の旅行の相伴をした時、信頼を得て、宣長の盲目の実子にかわって、本居家の家督を相続しました。宣長ほどの独創はありませんでしたが、その学問を継承、普及した功績は大きく、門人は1万人にも及びました。「藤垣内 (ふじのかきつ)」は大平の別号です。

### 「竹柏園文庫」佐佐木信綱 歌人、万葉学者

#### 明治5 - 昭和38 (1872-1963)



東大において、「万葉集」の研究等に多くのすぐれた実績を残しました。また、古写善本を多数発見し、その紹介にも努めました。

「竹柏園 (なぎぞの)」は信綱の号です。

ル219-17『跡云草』

寸法：5.1×2.0cm



## 「白井氏蔵書」白井光太郎 植物学者

文久3 - 昭和7 (1863-1932)



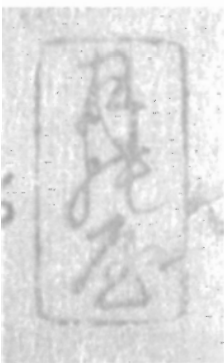
伝統的本草学の最後の継承者。また、わが国の植物病理学の創始者でもあります。

ル210-80『後撰集詞のつかね緒』

寸法：2.4cm 四方

## 「月の屋」横山由清 国学者

文政9 - 明治12 (1826-1879)



和学講談所の教授。  
維新後は、制度法律の勉強をし、元老院権少書記官として、旧典類纂の編集に努め、晩年は東京帝国大学法学部で古代法制史の講師となりました。「月の屋」は和歌を教えてくれた義母が「月の屋桂子」と称したので、それをついだとも思われます。

ル130-8

『栄花索引』

寸法：1.9×1.0cm

## 「高の蔵書」高野辰之 日本芸能史家

明治9 - 昭和22 (1876-1947)



東京音楽学校教授となり、堅実な考証的学風で歌謡・演劇史を専攻しました。東京帝国大学での「日本演劇史」の授業は人気があったそうです。

ル120-262『還城樂之物語』

寸法：直径2.1cm

最後に変わった人を紹介しましょう。

## 「讀杜艸堂」「天下無雙」寺田望南

2印を使い分けた明治時代の蒐書家

文部省に勤めていましたが、その職をやめた後は古書の売買、斡旋などで生計をたてていました。



ル120-154

『おちくほ物語』

寸法：1.7cm 四方

「讀杜艸堂」とは、杜甫の詩が好きで寺田が自分の家を「杜甫の作品を読む家」と称したのでしょうか、この印を自分の本にだけでなく、書店が見本に置いていった本や、人から借りた本にまでこの印を捺してしまったそうです。筑波大学にも「讀杜艸堂」印が捺された本が多くみられますが、全て彼の蔵書というわけではないのかもしれませんが。



「天下無雙」印は、その中でも彼が気に入った本に捺したもののようです。さすがにこの印を持つ本は、筑波大学では今のところ、1冊しか見つかっていません。

ス420-33『茶具圖贊』

寸法：2.1cm 四方

参考文献；

国立國會圖書館蔵書印譜. 青裳堂書店, 1995 (日本書誌学大系第70巻) [中央 024.9-Ko49]

近代蔵書印譜 / 中野三敏編. 青裳堂書店, 1984 (日本書誌学大系第41巻) [中央 024.9-N39]

コンサイス日本人名事典. 改訂版 三省堂, 1990 [中央, 体芸 281.033-Sa66]

国書人名辞典 / 市古貞次 [ほか] 編. 岩波書店, 1993-1999 [中央, 体芸 281.03-Ko53]

(古典資料係)



## 本学教官寄贈著書紹介

平成12年8月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。(敬称略, 寄贈者五十音順, [ ] は配架場所と配架番号です。)

### 清登典子 (文芸・言語学系)

・蕪村全句集/藤田真一共編。おうふう, 2000  
[中央 911.34-Y85]

### 藤田和弘 (心身障害学系)

・長所活用型指導で子どもが変わる part 2: 小学校個別指導用/熊谷恵子, 青山真二編著. 図書文化社, 2000 (国語・算数・遊び・日常生活のつまずきの指導) [中央, 大塚 375-Ku33]



## 私の一冊

### 清登典子

#### 「蕪村全句集」

藤田真一・清登典子編 ((株) おうふう)

[中央 911.34-Y85]



本書は与謝蕪村の全発句, 2,900句近くを季題別に配列した集成である。各季題の配列は『古今集』以来の和歌, 連歌, 俳諧などの集のスタイルにならない, 季節のめぐりに沿ったものとした。

また, 各季題内の発句の配列は制作年次順とし, たとえば「野分 (のわき)」の季題ならば, 明和五年 (1768) の「鳥羽殿へ五六騎いそぐ野分哉」から天明三年 (1783) 作と推定される「妻も子も寺で物くふ野分かな」, さらに年次未詳の「山だちの沙汰して通る野分かな」まで計26句の

発句が並べてある。季題, 句意については, 一つ一つに頭注で解説を加えた。

このように季題別という配列にしたのは, 蕪村の場合, その発句作品のほとんどが句会における題詠句であり, 作品理解のためにも季題意識を探る必要があると考えたことによる。実際には, 季題の選定, 配列, 解説どれをとっても簡単にはいかず, 結局, 刊行までに10年以上の歳月がかかってしまったが, しかし, その作業を通じて多くのことを学ぶことができたと思っている。

実は本書を図書館に献呈させていただいたのが献呈本の少ない夏の時期に当たっていたため, 今回このような欄で紹介させていただく結果となり, 大変恐縮している。文字通りささやかな小著ではあるが, もしもお暇な折りに図書館で見かけられるようなことがあれば, 手にとって眺めていただき, 蕪村の世界の多彩さ, 楽しさを少しでも感じていただくことができれば, 編者としてこの上ない喜びである。

(きよと・のりこ 文芸・言語学系助教授)

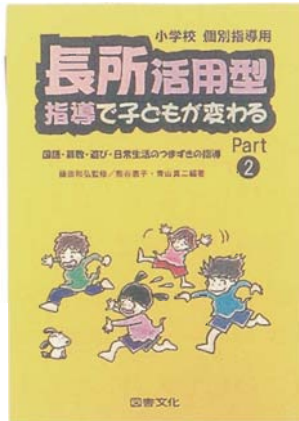




藤田和弘

小学校個別指導用「長所活用型指導で子どもが変わる part 2」—国語・算数・遊び・日常生活のつまずきの指導—

藤田和弘監修／熊谷恵子，青山真二編著（図書文化社）〔中央，大塚 375-Ku33〕



本書は、1998年に出版された『長所活用型指導で子どもが変わる』のPart IIである。したがって、基本的なねらいは何ら変わらない。「個に応じた指導」を行うためには、指導者は、自分が習得した「指導方略」を画一的に子どもに適用するのではなく、子どもの「学習方略」に合致するよう、自らの指導方略を工夫する必要がある。本書のねらいは、このように、指導者が指導方略を工夫する際の、その理論的な考え方と実際の指導方法を提供することにある。研究者と教育実践者との協同によって著わされた手作りの本である。

子どもの「学習方略」にはいろいろなものがあるが、本書では、カウフマン夫妻（Kaufman, A. S. & Kaufman, N.）の提唱する「継次処理」，「同時処理」という2種類の認知処理様式を取り上げている。そして、一人一人の子どもの得意な、あるいは強い認知処理様式を活用して、その子どもの学習のつまずきを改善ないし解消したり、さらなる促進を図ることをねらっている。これが、子どもの得意な認知処理様式を生かした「長所活用型指導」である。これまでの伝統的な指導法は、子どもの得意な面や強い能力を活用するのではなく、子どもの弱い能力そのものを改善したりレベ

ルアップすることを強調する「短所改善型指導」が主流であった。しかし、学習障害をはじめとする発達障害のある子どもの場合など、こうした指導法だけでは効果があがらず、逆効果になることさえあることが明らかになってきた。

本書はPart IIであるが、前書Part Iと次の点で異なっている。

①対象：通常学級で学習につまずきを示したり、通級による指導を受けている子ども（Part Iでは、おもに特殊学級や養護学校の在籍児）。②認知発達レベル：7才から9才レベルくらいまで（Part Iではおよそ就学前まで）。③とりあげた教科等：国語，算数，遊び，日常生活の指導（Part Iでは国語，算数，作業学習）。

それぞれの学習課題の各ステップごとに、継次処理型学習者に対する指導方略と同時処理型学習者に対する指導方略が、指導展開例として、図解入りで具体的に説明されている。

読者対象は、通常学級や通級学級の指導に携わる教師，それらをめざす学生のみならず，特殊学級や養護学校など特殊教育諸学校の教師，リハビリテーション関係者，ボランティア，保護者などである。

（ふじた・かずひろ 心身障害学系教授）





## ERIC（教育学文献）の利用について

今回は、教育関係の文献検索と入手によく利用される、ERICのデータベースとドキュメントをご紹介します。

Q：この洋書がOPACで調べてもなかったのですが、どこか他の図書館にありますか。

A：えーと、OPACには確かにヒットしませんね..... あ、でも、これはERICのレコードにある資料ですので、筑波大学中央図書館の視聴覚メディア室で見られます。

Q：エリック、ですか？

ERICは米国教育情報源センター（Educational Resources Information Center）の略称で、教育関係の文献・情報の組織的な収集と提供を行っている機関です。

集められている文献は1966年以降に出版された主として英語／アメリカ国内のものですが、収集文献についての情報はデータベース化され、インターネットでも公開されています。

またERICでは、収集文献の一部（レポート類、会議録、単行書、学位論文など）を、マイクロフィッシュの形で提供しています。本学図書館ではこのうちED010000以降のマイクロフィッシュを全件購入しており、学内外の方に広く利用されています。しかしこのマイクロフィッシュは本学図書館のOPACに登録されていないので、お探しの資料がERICドキュメントとして図書館にあるかどうかは、まずERICデータベースを検索して、ヒットした場合にはドキュメント番号などを確認する必要があります。

Q：そのERICデータベースを使ってみたいのですが、まずどこにアクセスすればいいのですか。

A：WWW上では、ERICデータベースが複数のサイトで提供されています。今回は「AskERIC」というシラキユース大学のサイトにある検索シ

テムを使ってみます。WWWブラウザを起動して、<http://ericir.syr.edu/Eric/>にアクセスしてください。この検索ページには、筑波大学図書館のホームページ上からもリンクをたどれます。

Q：この画面（図1）で、キーワードを入力するわけですね。

A：はい。無料で公開されているデータベースですので、ぜひ試してみてください。

Q：では後で検索してみます。「ITと言語習得」に関する文献を今探していますので。

A：もちろんキーワードは英語にしてくださいね。あと、ITはこの形で入力しても正しく検索できないと思いますよ。

ERICで収集される資料の主題範囲は、教育分野を中心として多岐にわたります。言語学やカウンセリングなど関連分野の文献もERICデータベースで探せる場合があります。

検索については厳密にはキーワードの選び方や入力方法が決められていますので、詳しくはSEARCHING ASSISTANCEの欄を参照して下さい（図1）。上の例でitという言葉がキーワードとして利用できないことも、ここに示されています。

なお、ディスクリプタなど、ERICデータベー



図1

スで統一して使われている索引語で検索すると、求める主題に合致した文献のみを効率よく検索できます。今回ご紹介したサイトとは異なりますが、<http://ericae.net/scripts/ewiz/>のERICデータベースでは、シソーラスを閲覧してキーワードを選び検索することができます。

Q:ところで、さっきの本のマイクロフィッシュというのが図書館にあることは、どうやって分かったのですか。あと、それはどこに置いてありますか。

A:これが、ERIC データベースで先程の洋書を検索した結果です(図2)。この結果の中の「ERIC\_

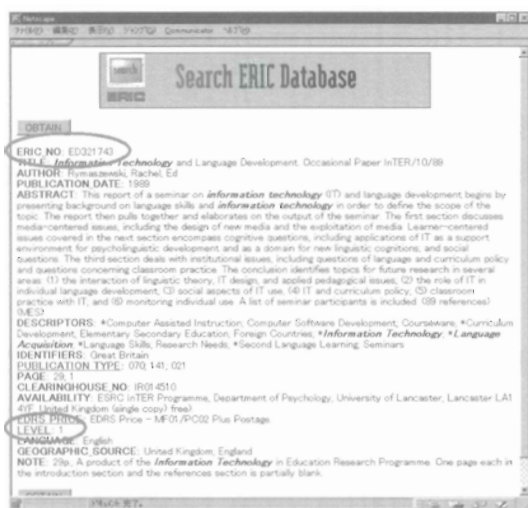


図 2



〔学内〕

第230回附属図書館運営委員会（9月開催）

〔審議事項〕○附属図書館利用細則の一部改正について○旧東京教育大学重複図書の教員特別貸出枠外特例貸出について○平成13年度の雑誌購入について、ほか

〔報告事項〕○研究図書委員会（第27回）について○各館委員会報告○各専門委員会報告○平成12年度研究用人文・社会系基本図書購入について、ほか

NO]と「LEVEL」というところを見て下さい。

ヒット文献のうち「ERIC\_NO」がEDで始まるもので、なおかつ「LEVEL」の部分が1または2の資料が、ERICのマイクロフィッシュで頒布されています。筑波大学図書館での所蔵は先に述べたとおりですので、結局「ERIC\_NO」がED010000以降で、「LEVEL」が1または2であれば図書館にあるということが分かります。マイクロフィッシュの最新受入状況は以下のページにあります。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/av/eric.html>

ERIC\_NOはEDの他にEJで始まるものもありますが、こちらはマイクロフィッシュが作成されません。EJ番号のついた文献やED番号でもLEVEL3のものについては、掲載雑誌や図書を別途探して文献を入手することになります。

マイクロフィッシュは、中央図書館新館2階の視聴覚メディア室にあります。専用のリーダーとプリンタがありますので、閲覧・複写が可能です。視聴覚メディア室でマイクロ資料を利用できる時間は、平日の9:00~12:00, 13:00~17:00です。

第231回附属図書館運営委員会（10月開催）

〔審議事項〕○平成14年度概算要求について、ほか  
〔報告事項〕○各館委員会報告○各専門委員会報告○外国雑誌について、ほか

第232回附属図書館運営委員会（11月開催）

〔審議事項〕○附属図書館長候補者の選考に係る意見書について、ほか

〔報告事項〕○各館委員会報告○各専門委員会報告○IDEAL（アカデミック・プレス社）の利用状況について○電子ジャーナルの利用に関するアンケート調査について、ほか

## 平成12年度附属図書館防災訓練を実施

10月24日（火）に、中央図書館において防災訓練を実施しました。

中央図書館1階からの出火を想定し、通報・避難誘導訓練を行いました。その他、筑南消防署員の指導のもと、屋内消火栓を使用しての放水訓練と、人口呼吸の救護訓練を行いました。

また、体育・芸術図書館では10月31日（火）、医学図書館では12月7日（木）に避難誘導訓練等を行いました。



指導による放水訓練（左上）及び救護訓練（右下）

## 掲示板

### 中央図書館からのお知らせ

#### ①重複一般図書の新館への別置について

本館3階・4階の書架狭隘化を改善するため、重複一般図書の一部を新館に別置しました。原則として所蔵が3冊以上ある重複図書を対象とし、2冊は本館に残してその他を同じ階の新館に別置しましたが、利用頻度の高い図書は、本館に3冊以上残してあります。別置した図書のOPACの所在表示は「中央新館緑」です。これは新館に別置した図書には、緑色の重複ラベルが貼ってあるからです。新館西側の一般書架に別置してあります。利用は本館配架図書と同様に貸出・閲覧・複写が可能です。閲覧・複写した際は必ず新館の元



の位置に戻してください。

詳細な別置場所は中央図書館内の掲示または図書館ホームページの「新しい情報」をご覧ください。<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

#### ②旧東京教育大学重複図書の特例貸出について

現在、旧東京教育大学重複図書は中央図書館外の施設（通称A書庫）に保管しています。これらの資料を有効活用していただくため、教員から申請があれば、教員特別貸出の特例措置として、教員特別貸出枠に算入することなく、新たに貸出冊数の制限をしない特例貸出を、下記の受付期間を設け実施しています。

受付期間中ご希望があればA書庫にご案内しますので、あらかじめ図書サービス係にご連絡ください。（内線2359）

#### ○教員特別貸出受付期間

平成12年11月16日（木）

～平成13年1月31日（水）

（ただし月～金 9:00 - 12:00, 13:00 - 17:00）